

第 40 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	令和 6 年 2 月 26 日（月） 14 時 00 分から 16 時 30 分まで	
開催場所	奈良市役所北棟 5 階 501 会議室	
議題	(1) 開 会 (2) 会長挨拶 (3) 議 事 ① 令和 5 年度事業視察について ② 文化施設の運営について (4) 報告事項 ① 令和 5 年度主な事業の実施状況について ② 奈良市文化振興補助金について (5) その他	
出席者	委員	萩原会長、山下副会長、上田委員、小野委員、島委員、関根委員、松下委員 【計 7 人出席】
	事務局	荒益課長補佐、吉川主査、山本総務係長、奥村振興係長、一柳、守道
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の会議録の署名は、萩原会長と小野委員が行う。 ・ 文化施設の在り方について継続的に審議する。 	
担当課	市民部文化振興課	

議事の内容

議事

(1) 令和 5 年度事業視察について

視察事業の概要を事務局より資料を用いて説明後、視察を行った事業についてご意見をいただいた。

〈視察委員からの意見〉

「暮らしに芸術の感動を届けるプロジェクト」

- ・ クラシックのコンサートだからなのか、ご年配の方が多く、家族連れが少ない印象。
- ・ 開催場所によって観客の層が違うが、若い世代が、参加しやすい雰囲気づくりがあればいいと思う。
- ・ 演奏家の方の、席を回りながら演奏するといった工夫で、参加者の人が満足している印象だった。
- ・ また、施設と音声館のスタッフとの連携があり良かった。

「演劇ワークショップ「演技に挑戦（演技、演劇）」（対象 中高生）」

- ・ 対象が明確であり、参加者のほとんどが初めて演劇を体験するような中高生であったことが評価できる。
- ・ 本ワークショップが 3 月の青少年と創る演劇の参加者を募る意図も持ち合わせていたため、プログラム同士の関連性も見られた。本プログラムの演劇初心者への入口として、次の大きな舞台での上位に繋がるプログラムへ発展させる流れはとてもよかった。
- ・ 初めて演劇に接する中高生が多数参加していたことから、潜在的なニーズを酌み取れていた

- ・ 費用対効果は妥当で、参加者の満足度は高いと感じた。大きな教育的効果も期待される。
- ・ ワークショップの中で養われる、互いの表現や、その違いを肯定し合う姿勢は現代社会に欠かせないのでありながら、インターネットやSNSのコミュニケーションツールでは学びえないまさに、演劇、身体的なコミュニケーションの中でこそ、身に付けることができるものであるため、中高生に求められるプログラムとして、今後も継続実施していくことが望ましい。今回のワークショップを担当した講師たちからも、ニーズの聞き取りを行い、プログラムをより充実するべき。
- ・ プログラムの最後に参加した中高生たちから、その場で一言ずつでも感想を述べてもらう場面があると良い。講師の側から、ワークショップのねらいや参加者の変化に対してのフィードバックをすることがなされていた。中高生たち自身がその日に得た気づきを自分の言葉で共有することは重要な学びの機会であり、また講師にとってもワークショップとさらなる改善に繋がるフィードバックとなる。
- ・ 奈良市アートプロジェクトはこれまで継続して開催されてきた中で、主にウェブサイトにてアーカイブが蓄積されている。今回のワークショップに講師として関わったアーティストや、これまで関わってきたアーティストのプロフィールや活動を集約したデータバンクのようなものをつくるべき。どのような創造的な人的資源があるかを可視化され、中学校高校といった教育機関、その他施設からもアーティストに対して何らかの依頼を求めることに繋がる可能性がある。

「演劇ワークショップ「モノ言う身体（身体表現・ダンス）」（対象 中高生）」

- ・ 今回身体表現を通じて、演劇に必要なスキルを身に付ける意図を十分に感じることができた。講師と参加者とのコミュニケーションも十分であったが、本ワークショップが、必ずしも参加者に明確に伝わっているというふうに思えなかった部分もあった。
ダンスと言いながらパフォーマンスが見えなかった。
- ・ 全体的な評価として4回のワークショップのみでは、中途半端であると言わざるをえず、時間的経済的な配慮を施して一層拡充に努めることが事業の意義を確固としたものに繋がる。
- ・ 青少年の自己表現の場として、またこれからの文化創造発展について、非常に大切な事業とあるため、成果の具体的な発表の場を設けるなどの工夫や改善が必要。また、開催の時期等についても十分留意すべき。
- ・ 本ワークショップは、青少年と創る演劇の基礎的な部分を構成しているため、上級のワークショップを適宜実施して、レベルアップを図ることが望まれる。
- ・ 目標設定を行い、自己実現を図るようにできるように、行政サイドの支援が期待される。

「0歳から大人までのパフォーマンスアートワークショップ「強くしなやかに立ち回る殺陣を体験」

- ・ 奈良の歴史的な文化遺産とも繋がってくる殺陣を体験することは、本事業の目的であるあらゆる世代の人々が文化に触れる機会という意味ではそれに資する事業である。
時代劇によって発展する殺陣のパフォーマンスは海外やインバウンドの人気のる。また、若年層でも関心を持つ人が一定数見込めるため、本事業は今後も継続して実施するべき。

「0歳から大人までのパフォーマンスアートワークショップ「親子で参加！赤ちゃん・こどもと踊ろう」

- ・ 孤独やひきこもりになりがちな子育ての中で、同じように子育てをしている人達がいることに気付けるプログラムであり、時間も最適であった。指導する先生だけでなく、サポートスタッフの方々の働きにより参加者全員の子供達がプログラムに参加できており、非常に安心して見ていられる空間だった。

- ・ 4 倍近い申込者数であったことから、このプログラムが求められていることが伺えるので今後拡充していくべき。この様な子育て世代に手厚いプログラムを行うことで、移住促進に繋がると思うので、文化の領域だけにとどめず、アピールするべき。

「0歳から大人までのパフォーマンスアーツワークショップ「写真からお話を書いてみよう」

- ・ 戯曲の構造をちゃんと踏まえて、完成品を持ち帰るといった講座内容は、専門性があり、受講生のレベルも上がり、成果があった反面、気軽に参加するという意味では、内容的にハードルが高いと感じた。講師と受講者の一対一の添削というよりは、今後はその場で書いたものを、お互いの感想を言いあう中でセリフにしたり、発表するなど、もう少し戯曲を身近なものにするための工夫があると良いと感じた。

(2) 文化施設の運営について

【事務局から説明】

- ・ 令和6年度からの指定管理者について、今年度8施設を選定したため、本委員会で委員の皆様にご報告及びご意見をいただきたい。
- ・ 資料を用いて奈良市音声館指定管理者選定の経緯を説明。
それ以外の市文化施設についても、第二次奈良市文化振興計画を推進していくにあたり、重要な役割を担っているため、この機会にご意見をいただきたい。
- ・ 現在文化施設では様々な事業を実施しているが、今現在実施している事業についての効果も踏まえて趣旨目的実施方法の見直しを図っていくとともに、いくつかの施設において、新規性の高い事業を実施していきたい。
- ・ 文化施設事業での補助金活用では、文化庁や一般財団法人地域創造の補助金、助成金、支援事業などを活用しながら事業内容の充実を図っていきたい。
- ・ 施設改修について、多くの文化施設の経年劣化が見られ、設備等の不具合に対応しながらの運営である。今年度においてはならまちセンターの外壁タイルの落下等があったので外壁の修繕をするとともに、この機会にエントランスも改修をしてアートセンター的な役割を強めて発信力の高い事業の展開を目指している。
- ・ その他の施設も随時必要な対応をしているが、改修が必要な箇所は年々増えている状況で、維持に係る経費が増加している。奈良市全体として考えていかなければならないが、施設を維持するために、中長期的な視点では施設の統合や、機能の見直しの議論も今後進めていかなければならない。

【委員から質疑・意見】

- ・ フォーラムやシンポジウムのような形で、奈良市にある文化施設がこれからどうあるべきかをテーマとして話す機会を設けてみてはどうか。社会の変化、奈良市という地域の環境が変化していくことを受けて、社会包摂的な課題に対して文化施設がどのようにアプローチするかなど様々な課題を議論し、文化施設のあり方を見直す時期に来ているのではないかと思った。

- ・ 他市でも指定管理の管理期間を延ばそうという動きがあり、10年間と設定しているところもある。しかし、10年後まで施設存続が保証できないことや、指定管理者の待遇が悪いなど、指定管理制度には問題もある。だからこそ、指定管理の規程を丁寧に作り込まないと長期で指定管理者を指定、指名することがかなり難しくなっていると思う。
音声館の指定管理者として全然土地に根差していない大学が選ばれるとなると、5年後10年後のことを誰が保証するのかと疑問を感じた。
- ・ 音声館であれば、まずは必要なのは自己点検評価である。どのように今まで条例に則り行ってきたのかを評価しなければならない。その後、それを第三者である協議会に評価をしてもらいながら事業を進めていかなければならない。
- ・ 各施設責任者が事業計画を提出し、事業計画に対する評価をしながら新規事業での予算要求、説明が必要。各施設の評価書の様式も目的別に分けるのではなく、各施設で事業に対して自己評価を書く形に変えるべき。
- ・ 音声館の運営に関していきなりサウンディングを実施する前にみんなでこの音声館の今後を話し合っ、条例を変えることも検討していくべき。条例があったまま、中身を変えようとしているが、目的がしっかりしていなければ運営の方針が定まらない。職員の気持ちや労働環境を考慮しつつ、公共の場所を開いて運営する中で、その地域の人や、多くの方とともにその場所をみんなでシェアすることが今後望まれるのではないかと思うので、対話をしながら、よりよい形を見つけていきたい。
- ・ 文化振興計画をつくる時は事業主体で、事業を都市文化振興と市民文化振興に分けて、その事業をどのようにうまく進めていくのかということに集約しているが、再度施設運営のあり方をこの文化振興計画の中で考えていく必要が出てきていると思う。
- ・ 施設単体ではなく地域に根付いた施設を総合的にどのように運用するのか、実施事業の連携など施設ごとの面的な展開を考える必要がある。
- ・ フォーラムを開くことは非常に重要だと思っているが、出席しない人の声も大切にしていきたい。
- ・ 所管が異なる奈良市の施設運営に関しても市民から見たら同じ市の施設とみられている。地域として面的に考え、継続すべき施設と閉館すべき施設についても検討する必要がある。
- ・ 文化施設で働く学芸員やスタッフの方々が持つノウハウを、民間施設などへ派遣するなど活用することも考える必要がある。
- ・ 文化施設の在り方については、継続して審議する必要がある。

報告事項

(1) 令和5年度主な事業の実施状況については資料で説明。

(2) 奈良市文化振興補助金について

- ・ 市民文化活動支援事業には、14 事業の応募、13 事業の採択で新規応募が 4 件。
上限 240 万円の都市文化推進支援事業の方は 5 団体からの応募、採択、新規応募が 1 件。
国際発信型には 1 団体からの応募、採択。
- ・ 今年度から支援事業の枠を増やし、スタートアップ支援事業という上限 20 万円で新規性や拡充性を有し、市内での継続的な展開が見込まれるものに対しての補助金を始めた。今回は 9 件の要望応募があったが、1 件不採択で残りの 8 事業を候補事業として採択。
- ・ 今年度と昨年度を比較すると、総応募件数は昨年度 16 件に対して今年度 29 件と 13 件の増加。
スタートアップ支援事業を始めたことが大いに影響しているが、それ以外にも、市民文化活動支援事業も新規応募があったため、このような結果になったと思われる。
- ・ 奈良市文化振興補助金の予算案自体は議会で議決された後、団体に交付する。

以上、議題終了